

「ベニズワイ(下)脱皮成長」 3年間で30ミリ大きく

なぞに満ちた一生

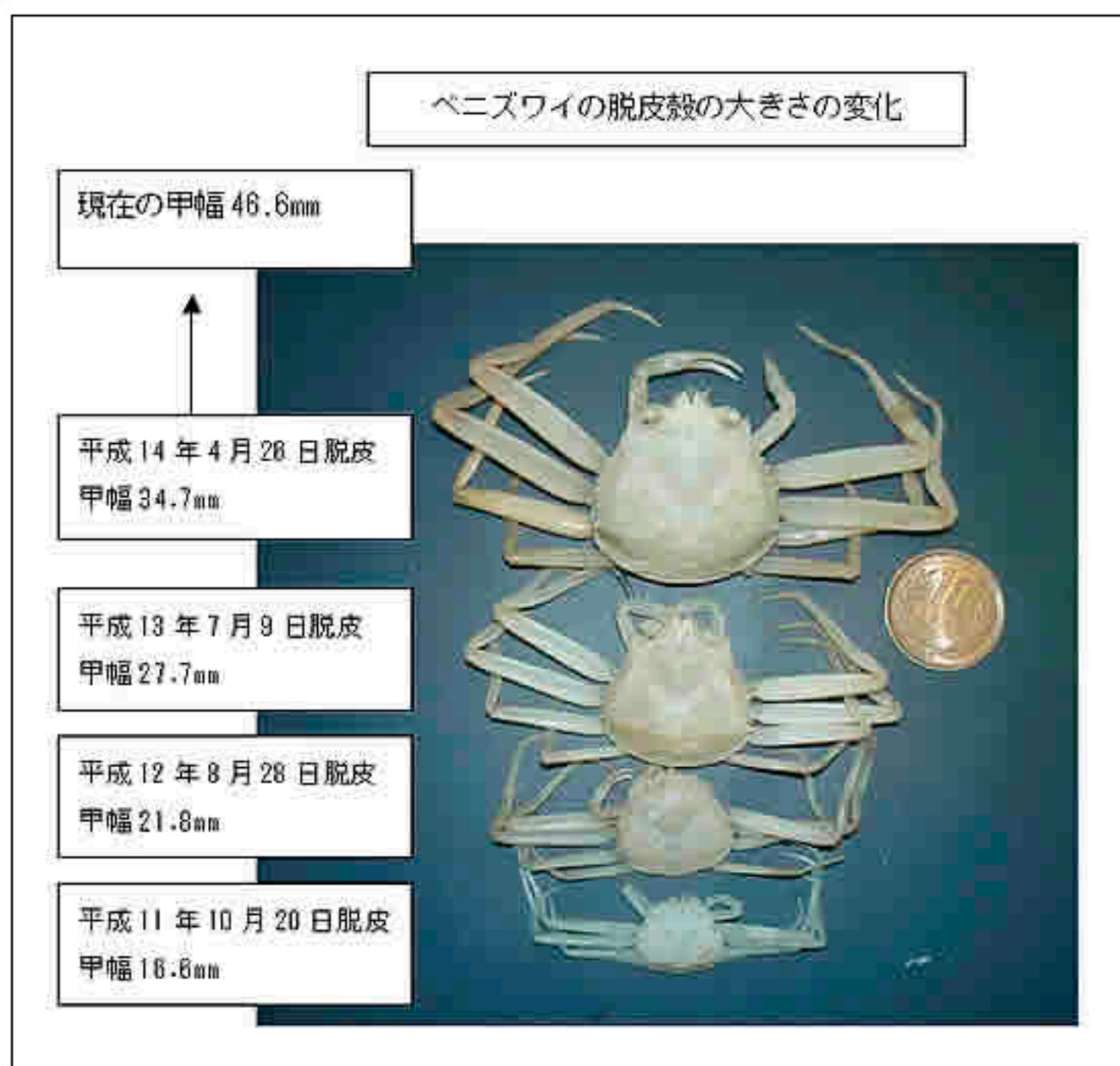
意外なことかと思われるかもしれないが、ベニズワイがどれだけの年数をかけて、私たちが食べるサイズ(甲幅9センチを超える大きさ)にまで成長しているのかは明らかにはなっていない。ベニズワイのような甲殻類には年齢形質(年齢の指標となる体の組織)が確認されていないため、天然海域から得られた標本を用いて明らかにするのは大変難しい。

水産試験場では、富山湾からくみ上げた深層水を、ベニズワイが生息する環境とほぼ同じ水温の0.5℃にまで冷却して水槽に入れており、ベニズワイが生息している低温環境を再現できる数少ない実験施設である。

しかし、生態について不明な点が多い現段階では、卵から心化した幼生を大きくなるまで育てることが困難なため、潜水調査船「しんかい2000」(海洋科学技術センター)の調査で、富山湾の海底から捕獲された大変貴重なベニズワイの子供(合計11個体、大きさ:甲幅12.0~57.4mm)を飼育し、観察を続けている。

えさには深層水中に含まれる動物プランクトンと、冷凍のオキアミを週に1回程度与えた。長いものでは、平成11年7月から3年以上の飼育が継続されている。写真に示した個体では、11年10月に甲幅16.6mmから21.8mm(1回目の脱皮を行い、最近では14年4月に34.7mmから46.6mmに脱皮した。この個体では3年間に4回の脱皮を繰り返し、30mm大きくなった。

合計11個体について、延べ25回の脱皮が観察され、脱皮間隔は最短で184日、最長で398日で、平均では約300日であった。また、1回の脱皮によって甲幅が約30%ずつ成長した。深海性のベニズワイの成長はそれほど速くないようである。今後もさまざまなサイズの飼育を継続し、なぞに満ちた一生を明らかにしてゆきたい。(前田経雄)



ベニズワイの脱皮殻の大きさの変化